資料2

見沼中学校区　児童生徒数の見込み

令和2年10月　行田市教育委員会

・見沼中学校区の児童生徒数の過去の推移から今後の見込みを示したものです
・すでに学校に在籍、出生している子供の人数と、過去の増減率を参照に推計しています
・合計人数の横の数字は、5年間の増減率です
・他校進学者とは、3小学校の卒業生のうち、見沼中学校以外の公立・私立中学校への進学者数です
（過去10年間平均で、卒業生全体の約15%が見沼中学校以外に進学しており、推計に反映）

【再編成】

2022 :R4	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
北河原小	7	3	0	5	6	2	23	
荒木小	14	10	20	17	24	17	102	
須加小	5	7	6	4	12	11	45	
計	26	20	26	26	42	30	170	-25.1%

	1年	2年	3年	計	
見沼中	27	42	36	105	
他校進学者見込				15	
差引				90	-25.6%

【5年後】

2027 :R9	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
北河原小	2	2	5	1	1	7	18	
荒木小	13	16	16	20	13	14	92	
須加小	4	5	4	4	4	5	26	
計	19	23	25	25	18	26	136	-20.0%

	1年	2年	3年	計	
見沼中	20	26	26	72	
他校進学者見込				10	
差引				62	-41.0%

【10年後】

2032 :R14	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	
北河原小	2	2	2	2	2	2	12	
荒木小	12	12	12	12	13	13	74	
須加小	3	3	3	4	4	4	21	
計	17	17	17	18	19	19	107	-21.3%

	1年	2年	3年	計	
見沼中	23	25	25	73	
他校進学者見込				11	
差引				62	0.0%

○　令和4年の再編を経ても、5年後には見沼中で4割の減少が見込まれ、10年後には、小中学校ともに4割の減少となってしまいます

○　見沼中学校は、令和2年度時点で、埼玉県東部地域で最も小規模（県内全域では413校中7番目）な学校であり、現在の小中学校の形を変えずに、将来的に見沼中学校区の学校を存続させることは困難と考えており、中学校教育の目的に照らし合わせた場合、望ましい状態ではありません

⇒　そのため、教育委員会では、複式学級解消に加え、小中一貫教育の取組みが可能となる施設一体型の義務教育学校を見沼中学校区に設立する計画としました

⇒　新たな学校では、9学年の児童生徒が一緒に過ごし、小中の枠にとらわれない教職員組織という利点を生かし、学力向上やいじめ・不登校の根絶等、行田市で一番を目指します

⇒　義務教育学校に通いたいという市内他学区からの児童生徒を受け入れることで、学校規模を維持し、学校を存続させることにつなげます